審査員長のコメント

〇審査員長　法政大学名誉教授　岡﨑昌之

大野高校の皆さん、４月からの探究学習、大変ご苦労様でした。テーマの模索や夏休みのフィールドワークや中間発表、そして、昨年の１２月２０日には、私も大野高校の方に伺い、特別講義をさせていただきました。

Ａ組からＤ組まで全部で２６チームの提案が出たわけですが、農林業や子育て問題、高齢化、朝市、水の問題、学校の再利用の問題、空き家問題など大野市が現在抱える課題を余すところなく取り上げてくれました。

今回、最終選考で５チームが残りましたが、この５チームに残らなかった２１チームの皆さんの提案のなかにも、非常に重要なものがあり、関心を払う必要があると思っています。

新型コロナウイルス感染防止のため、発表会が中止となり、ビデオ審査になったことは残念ではありましたが、このビデオ動画を拝見して、皆さんがパワーポイントをフル活用したり、ＩＣＴと言われる情報発信技術を活用したりして発表してくれた内容は素晴らしかったと思います。

高校生の若者らしい発想、その上に大野市の個性や可能性を引き出そうとした提案が、それぞれの賞に選ばれたのではないかと思っています。受賞された皆さん、本当におめでとうございます。

それぞれの提案は非常に多方面で具体的なもので大変良いものでしたが、若干の課題もあるかと思います。

一つ目に、これらの提案を「誰が担うのか、高校生である自分たちはどう関わるのか。」といった「担い手」の問題を十分に考える必要があります。

二つ目に、今後の大野市を広域で考えるという視点も重要です。数年後には中部縦貫自動車道が福井県内全線の開通となります。そうなりますと、名古屋は日帰り、東京をはじめとした関東圏にも非常にアクセスしやすくなります。このような状況下における大野市の問題というのも検討する必要があったのではないかと思います。

そのような点では、大野市が合併で一緒になった旧和泉村についての関心が物足りなかったかと思います。中部縦貫自動車道が開通しますと、名古屋方面からの入り口は旧和泉村ということになります。過疎化、高齢化といった問題を抱えてはいますが、このような時に旧和泉村は大野市にとっての大きな資源となります。こういう視点からも検討する必要があったかと思います。

三つ目に、今回、観光の問題に関する提案が多かったように思いますが、私は１２月の講義で、「自分たちの、大野の人たちの暮らし、そこでのライフスタイルというものを大切にする、それを磨き上げるということがまちづくりの原点だ」というお話しをしました。観光については、大野の人たちが大野らしい

暮らしをしている、そこに魅力を感じた人たちがやって来る、それが本来の観光の意味です。どうしたら自分らしい暮らしが大野で全うできるかということを今後も考えていただきたいと思います。

最後に、「わたしが未来の市長プロジェクト」を長年に渡って企画をしてくれました、石山市長、大野市役所の皆さん、また、事業に御協力をいただきました、大野高校の先生方、保護者の皆様など関係各位にお礼を申し上げて、審査員長の講評とさせていただきます。